

新年度が始まり、初めての長いお休みでしたが、今年は コロナウィルスの感染状況により 昨年に引き続いての 不安も多く 不自由を強いられた毎日でした。それでも連休明けの6日、久しぶりに登園してきた子ども達は皆、明るい笑顔で満ちていました。4月から仲間入りした 仁(じん)くん・美空璃(みくり)ちゃん・春楓(のどか)ちゃん・嶺(れい)ちゃん・遼大(りょうた)くん・柚巴(ゆずは)ちゃん・映(はゆる)くん・柚斗(ゆずと)くんの8人も、周りのお友達や先生達に心を開きながら 穏やかな表情で過ごせるようになりました。大好きなお家の方と離れ、何もかもわからない生まれて初めての この新しい場所で どんなに心細いだろうと、その気持ちに「そうだよね、わかるよ、ママがいいよね」と寄り添いながら 大粒の涙を拭いてあげていた4月当初の泣き顔が、今では虚の様に 可愛い笑顔に変わりました。子どもって ほんとうにすごいなあと、その心のたくましさと柔軟性に改めて感動させられます。

保育園は、子ども達にとって 人生初めての“社会”です。保育園生活で最も大切なことの1つに ひとりひとりが『自分らしさを ありのままに表わして生きる』ということがあります。これは人間関係を築く上で互いの心に生まれる“信頼”の基礎となる 非常に大きな要素ですが 現代の社会生活において、自分自身のあるがままを肯定し、自分らしく生きることというのは 極めて難しいことかもしれません。けれども だからこそ、目に見えないものに 想いを馳せる 生き方の貴さを 幼い頃に知ってほしいと願っています。人の すべての基は心”に 在ります。その最も大切な“心”の育みに 何より力を注ぐ保育をすることが私共の使命だと思っています。自分を愛し 自分を信じ 受け入れる心は、人を愛し 人を信じ 人を受け入れる心に 繋がります。人の心に生まれる“信じる”という想いは、自分が愛されている安心感から 養われていきます 愛され 祈られ ゆるされて育った子どもは、人を愛し 人のために祈り 人をゆるし 思いやる 心が育ちます。神さまが今も昔もずっと、人に対して願われていることは、お互いがお互いを 認め合い、あるがままを受け入れ合う、愛と優しさに満ちた世界を造ることなのだと思います。人が、人として 人らしく生きるとは、そういう温かな人間関係を構築し合うことなのでしょう。「子どもを育てる」とは、今この瞬間 目の前にいる子どもの豊かな本質を信じることでであると 私は思っています。神様がひとりひとりに命を与えられた瞬間、それぞれに備えられた無限の可能性のあることを信じ 待つこと、見守ること、そして 子ども達ひとりひとりが 歩いていく 果てしない未来を信じ、その道のりを祈り続けること・・・そこには 目に見える確かなものは 何もありません。けれども 私達大人の使命は きっと そうやって信じながら繰り返し繰り返し ひたすら 注ぎ続けること、その命への希望が『育てること』に繋がっていくのだと思います。

日々の保育を通して 私共大人も 一人の人として、子ども達ひとりひとりと真剣に向き合い 信頼の糸を 確かな人間関係の絆へと紡いでいけるよう 精一杯 尽力していきたいと思えます。そして、子ども達それぞれが持っている 素晴らしい個性と可能性の芽が すくすく 伸び伸び、思いきり発揮できる、子ども達のための 豊かな環境を 心をこめて整えていきたいと思えます。

保護者の皆様からお預かりしている かけがえのない大切な命を いつくしみ、どんな時も 子ども達を真ん中にして 成長を共に喜び合い寄り添いながら それぞれのご家庭と二人三脚で 歩いていけるものでありたいと思えます。そして この保育園が、いつでも 子ども達にとって 『自分の家と同じように安心して過ごせる空間』であり、私達 保育者が『自分のお家の人達と同じように信頼できる存在』であることを 第一に 心を合わせながら 一同 尽くして参ります。

子どもは 未来そのものです。人々の 希望であり 世界の光であり 永遠に輝く貴い宝物です。つづいて保育園を通して神様から与えられた 愛する子ども達、そして皆様との出会いを心から 感謝しています。神様の大きな平安と豊かな祝福が いつもありますよう お祈り致します。

「見よ。子どもたちは 主の賜物、胎の実は 報酬である。(詩篇 127:3)」(石田 記)